

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500097		
法人名	医療法人社団 千寿会		
事業所名	高齢者グループホーム みずばしよ		
所在地	登別市登別東町4丁目48番地1		
自己評価作成日	平成28年12月5日	評価結果市町村受理日	平成29年1月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0193500097-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 28 年 12 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ご家族と共に協力し合い、一人ひとりの個性や思い、その人らしい生活が送れるように支援を行っています。利用者ご家族がなじみの関係を持ち毎日が生き生きと生活が出来るように、健やかな生活が送れるような支援を送っています。出来る事、出来ない事には拘らず、利用者が自ら行動を起こせるような、場面を作り一人ひとりが常に中心となれるような環境づくりを行っています。また利用者の方たちが手を取り合い食事の準備を行う事、困っている利用者の方に手を差し伸べる事が出来る環境作りを行い、共に生活している事が実感できるような支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき実践に繋げる努力は行われており、具体的には食事支援、家事支援が中心となっている。職員間での共有は出来ていると評価しているが、個人差もあるのも事実で、人の支援の追求にはまだまだ勉強と経験が必要な状態である。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での行事、地域での行事への互いの参加はあるが、日常的と言えるかはまだ不十分と考える。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やインターンシップの受け入れなどを行っている。また、総合施設長は近隣高校の初任者研修の講師を務めたり任意団体の長を務め、管理者もその補助を行い地域の人々への発信を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の定期開催を行い、町内会、消防、警察、地域包括支援センター職員などの参加により意見交換等を行うとともに、事業所の運営状況の報告を行いながらサービスの向上へと努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に総合施設長が連絡を取り合い、事業所内の報告事項、行事関係についても連携を図り、協力関係を築いている。また、有志で構成されている登別グループホーム友の会の長に就いており、市内の事業所を含めた団体としても行政との連携を図り地域の中心となって活動している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日の支援での状況や、ミーティングなどでも折に触れ話し合いの場を持ち、身体拘束についての理解を深め支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる支援等が見過ごされることが無いよう日々注意し、意識はしているが、学ぶ機会としての研修会の開催や参加は不十分である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	業務の中で学ぶ機会はなく、十分な知識も得られていないためそれらを活用した支援は出来ていない。業務外でも研修会への参加は無く、今後の課題として挙げられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結前より、本事業所の見学の受け入れや事業内容の説明を行い、入居の有無にかかわらず十分な理解を得られるよう努めている。また、ご本人・ご家族の不安にも丁寧に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には管理者や勤務のスタッフが近況の報告を行いご家族の想いを拾えるよう努めている。また、日頃より入居者の意向の確認が出来るようスタッフ間での情報共有を行い、運営に反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者へは管理者が、管理者はスタッフと意見や提案事項を確認し合い、それらが伝えあえるよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を行い、個人の努力目標を確認し、その達成のための面談等を行っている。向上心を持って働けるような給与水準には個人差があり十分とは言えないかもしれないが、その整備のための努力はしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の案内が遅れることで十分な参加は得られていないが、わかりえる範囲の研修会への参加は案内し、希望があった場合には参加できるようシフトの調整を行い、スタッフの研修機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	総合施設長が複数の公職を務め、これらの機会を作るよう努めている。シフトや家庭の状況により勤務外での参加はなかなか難しい状況があるが、管理者がその責を担いネットワーク作りを行いながらスタッフへの浸透を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の開始前には、ご本人、ご家族との面談を行い、お話を聞く機会を設け、それぞれの要望にはしっかりと耳を傾け関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりその関係性の構築に努め、ご家族のニーズにお応えできるようにしている。また、入居後も通信や面会時に近況の報告を行い、関係性の維持にも注意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本は入居を前提とした相談を受ける為あまり多くは無いが、以前にはご本人の本当のニーズに沿った資源の提案なども行い現実となったこともある。現状でも、グループホーム以外のニーズが見えた際には、他のサービスの提案を含めた対応の準備は出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者主体の生活を意識し、特に食事の支援には力を入れながら取り組んでいる。暮らしを共にする者としての意識にはスタッフの差があり、まだまだ課題は多い現状である。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後もご家族との関係性が切れる事が無いよう日々の働きかけは行っている。一方で、ご家族の想いに十分に触れることが出来ず、スタッフとの感情が交錯している部分もあり、課題もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や友人との面談の確保、かかりつけの病院との関係など、これまでの関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事支援を中心に置きながら入居者同士の関わりが保てたり、持てたりするよう努めている。また、日常でも入居者間でのやり取りに過剰に介入することなく互いの関係性が保てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の入院先へのお見舞いなど、退去してもこれまでの関係性を維持できるよう努めている。また、必要時には相談等が行えるような関係性の維持にも努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントツールを使用し、暮らしの意向を拾い、形に出来るようにしている。十分な意向が確認できない場合でも、本人の立場に立ってその意向を検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本的にはご本人、ご家族よりその情報収集に努め、必要時には面会等での聞き取りを行いながら補充している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する心身状態や有する能力の状態に目を向け、その時出来る事に着目しながら支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議としての場にご家族の参加は無いが、日々ご本人、ご家族(面会時)の意向を聞き取りし、介護計画へ反映できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	まだまだ不十分ではあるが、支援経過の中にスタッフの主観に基づく観察点などの記録スペースを作り、モニタリングや介護計画への反映の材料にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や外泊も希望に応じて対応している。受診時には希望されるご家族との同行も行い、個別なニーズにも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの生活歴に応じた社会資源を確認し、所属していた会などへの参加の支援も行い、住み替えが行われた後も暮らしの豊かさが減少しないよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であるが、これまでのかかりつけ医を強制的に変更することは無く、希望される形での受診が出来るよう支援している。また、適切な医療を受けられるよう、受診時にはスタッフ間での情報共有を行い対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	所属の看護師は週に1回の勤務であるが、これまでの経過を伝え、看護師の気づき等については確実な申し送りを行い受診等へつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状況確認を行いながら病院関係者との関係にも注意している。普段の受診等でも、外来との関係性を重視し、意見交換がスムーズに出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	利用開始時には「重度化した場合における(看取り)指針をご本人、ご家族へ提示、説明と同意をいただいている。また、ご家族と管理者が話し合う事もあり、担当医や看護師、総合施設長なども含めた話し合いを行い、当事業所で出来る事の説明も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの周知は出来ているが、全てのスタッフが定期的な訓練を受けては無く、実践力としての評価は難しいため、今後の課題である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練(昼・夜)は行っており、町内会、消防の参加のもと行っているが、入居者と一緒に避難する(災害時の訓練)はまだ出来ていない。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや呼びかけ方には配慮はしているがまだ課題として残っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り「どうする?」といった問いかけを行い、自己決定には配慮しているが、共同生活と集団、個々の生活としての意識にはまだ課題がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個別のアセスメント状況を把握し、その日の気分等に配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りご本人の意向を確認しながら服装などへの配慮はしているが、身だしなみ、特に整容に関しては不十分な場面が見られ、スタッフ間の意識の差が統一されていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、調理、片付けは一緒に行っているが、時間の帳尻合わせにスタッフが出過ぎてしまう場面もある。ただ、入居者の支援である事には確認をしまい、現在も取り組んでいる。献立の組み立て方には今後工夫が必要。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量は毎日、毎食時チェックを行い必要量の確保と確認は行っている。献立の部分での課題が残ってはいるため、今後改善していきたい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には出来るように、出来ない方にはその必要に応じて口腔ケアを行っている。必要な物品に関してもスタッフ間で調整を行い購入等を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用しながら、スタッフ間で協議し物品等の選択も行っている。その中で、失敗やおむつの使用の減少に向けた取り組みも行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の活動はもとより、乳酸菌飲料や乳製品の摂取、必要に応じ下剤等の調整を医療・介護協働で行い、便秘の予防と排便の確保に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	なるべくスタッフが2名以上いる時に入浴していただいているが、必要時には夜勤帯であっても希望に応じて入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝のタイミングは個別の生活習慣やその日の活動状況に応じ対応している。午睡であっても同様に、個別のニーズに対応して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは内服している薬に関し理解し、作用、副作用に関する情報を共有し、必要時には改善等の上申を医師に行い生活を支えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事支援を中心に、それぞれの役割を見出し支援を行っている。個別な部分でまだ不十分な点があるので、もう少し機動力ある支援を展開出来るようになりたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り外出支援も含めた生活が送れるようにしているが、車両の都合等で出来ないこともあるため、その際にも出来る事を見つけながら外出支援が行われるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の力に応じて金銭の所持や支払いは行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の使用は出来るようにしている。手紙のやり取りに関しては一部ではあるが行っているが、1人では十分に行えない方への支援としてはまだ不十分である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、空間の状態に関しては出来る限り配慮し、持てるハードの状況に応じて死角等の確保も行い、くつろげる空間を意識している。季節に応じた飾りつけなども一緒に行い、生活感や季節感を大切にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在持てるハードの中での、状況に応じて一人になれるスペースや、集団で過ごせるスペースなどへの配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた物を持ち込んでもらうなど居心地良い空間への配慮はしているが、設置済みの家具(ベッド、テレビ等)があることでご本人にとっての居心地の良さに影響が出ている印象もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や表札などで一律な引き戸の差別化を図るなどし、家具などは伝え歩きが出来ることなどを考慮し、一律に排除する事などが無いよう注意している。		